

海月(くらげ)研究所(川崎市、木平孝治社長)はクラゲに含まれる成分を抽出し、医薬品や化粧品などへの応用に取り組んでいる。クラゲの大量発生で漁業用の網が破られたり、稚魚が捕食されたりする被害が相次ぎ、「何とか有効な資源として活用できないか」と考えた結果、クラゲから抽出したコラーゲンが健康や美容に効果のあることに着目し、製品化を目指して創業した。

同社は埼玉県春日部市の工場で年間約4トンのクラゲを処理している。東京湾や鳥取、大分県沖で取れたミズクラゲなどを運び込み、専用の機器を使って成分を抽出。乾燥させ、粉状にし

## この企業ここがポイント

### 海月研究所



東京湾などで取れたクラゲからコラーゲンなどを採取している

#### 《会社概要》

- ▽本社 川崎市高津区坂戸3の2の1 K S P 東501号室 (☎044・281・4098)
- ▽事業内容 クラゲ由来成分の製造・販売
- ▽従業員数 7人
- ▽もう一言 「漁業に被害を与えるクラゲを活用し社会貢献にもつなげる」

## クラゲから医薬・化粧品 成分抽出 外部提供

た成分を健康食品や医薬品の開発を手掛ける企業に提供している。

起業の発端は04年、木平社長が大学時代の後輩にあ

たる理化学研究所の研究者から「クラゲから採れる成分を使って事業化できませんか」との相談を受けたことだ。日本海沿岸でエチゼンクラゲの漁業被害が話題になっていたさなか、理化学研の研究でクラゲにムチンと呼ばれる糖たんぱく質が含まれることが判明。ムチン

理化学研が取得したムチンの物質特許のライセンスを取得し、09年に会社を設立。まずはコラーゲンを事業の中軸に位置付け、クラゲから採取した成分を10リットルあたり、2万5000円超えたり、2万5000円超えた。13年度までに売上高を3億円まで引き上げる計画だ。今後数年かけ、化粧品や食品だけでなく、将来的に医療への応用も期待できるムチンの精製にも着手する。

課題はクラゲから成分を量産化する設備が不足している点。クラゲは約95%が水分で、抽出できる有効成分の量が少ないため、設備の拡充を検討する。木平社長は「コラーゲンといえば魚や豚を由来とするイメージが強いが、クラゲの認知度も高めたい」と意気込んでいる。

# 神奈川

電話 044-2201-2551  
 044-2222-7793